第5章 建築・設備基本計画

5-1 配置・平面計画

配置・平面計画については、展示・収蔵機能の充実を図るとともに、来館者サービス機能の向上及び利用者動線の改善を目的として、既存施設の改修及び増築を一体的に計画します。



東側外観　現況イメージ



東側外観　増築CG



交差点側外観　現況イメージ



交差点側外観　増築CG

5-1-1 増築計画：展示室・収蔵庫の充実

複数案による比較検討の結果、既設新館の一部を解体したうえで、現在の敷地内において増築を行い、展示室および収蔵庫を拡張する計画としました。

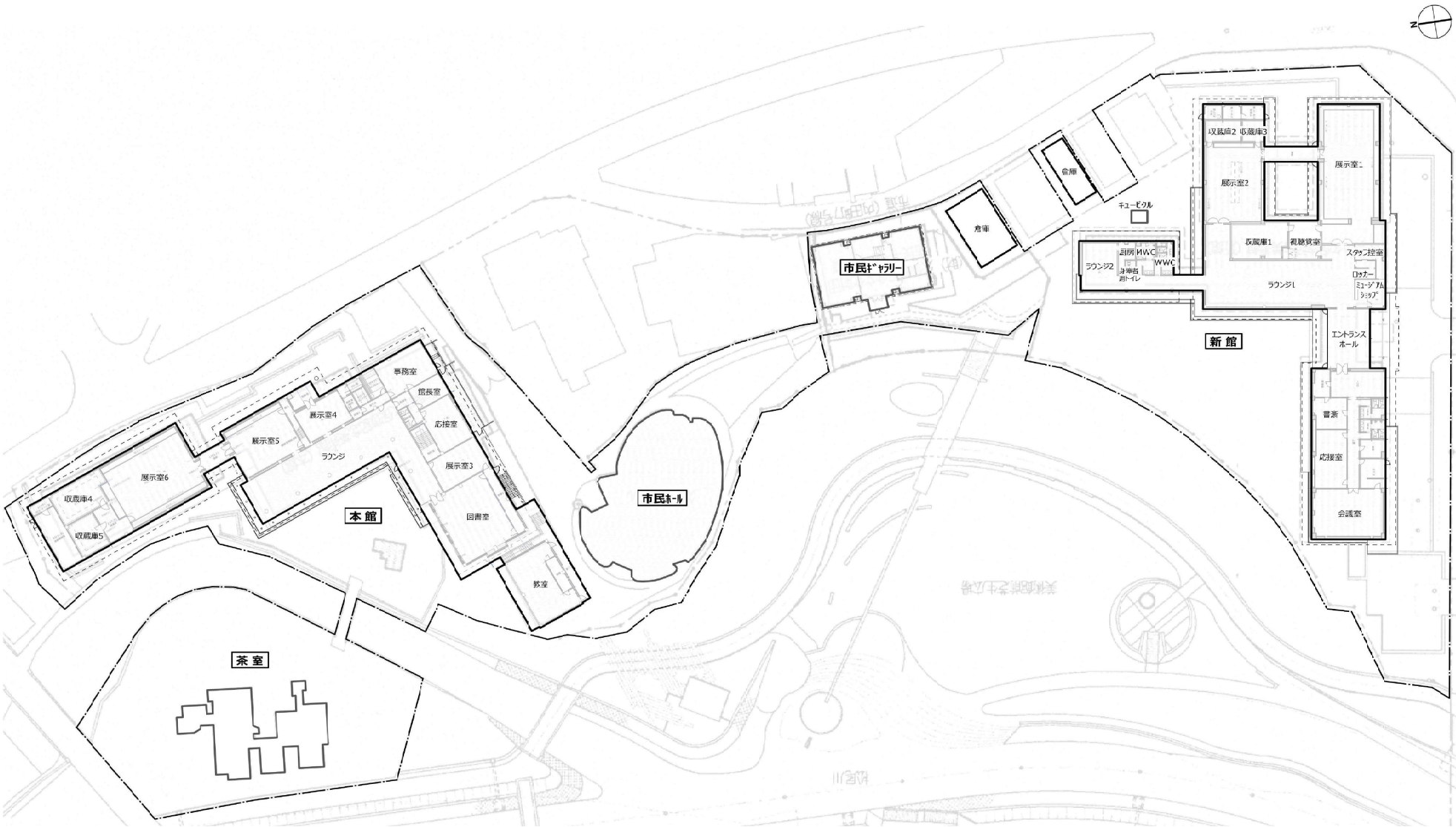
収蔵機能については、既設収蔵庫1に前室を設けることで、温湿度管理や動線管理に配慮した構成とし、公開承認施設として必要な水準を満たす収蔵環境を整備します。

施設全体のゾーニングについては、来館者動線と設備メンテナンス動線を分離しています。また収蔵庫へのアクセスについても、現状のように展示室を経由するのではなく、共用部から前室を経て収蔵庫へアクセスできる動線計画とすることで、利用者の快適性と作品保全の両立を図ります。

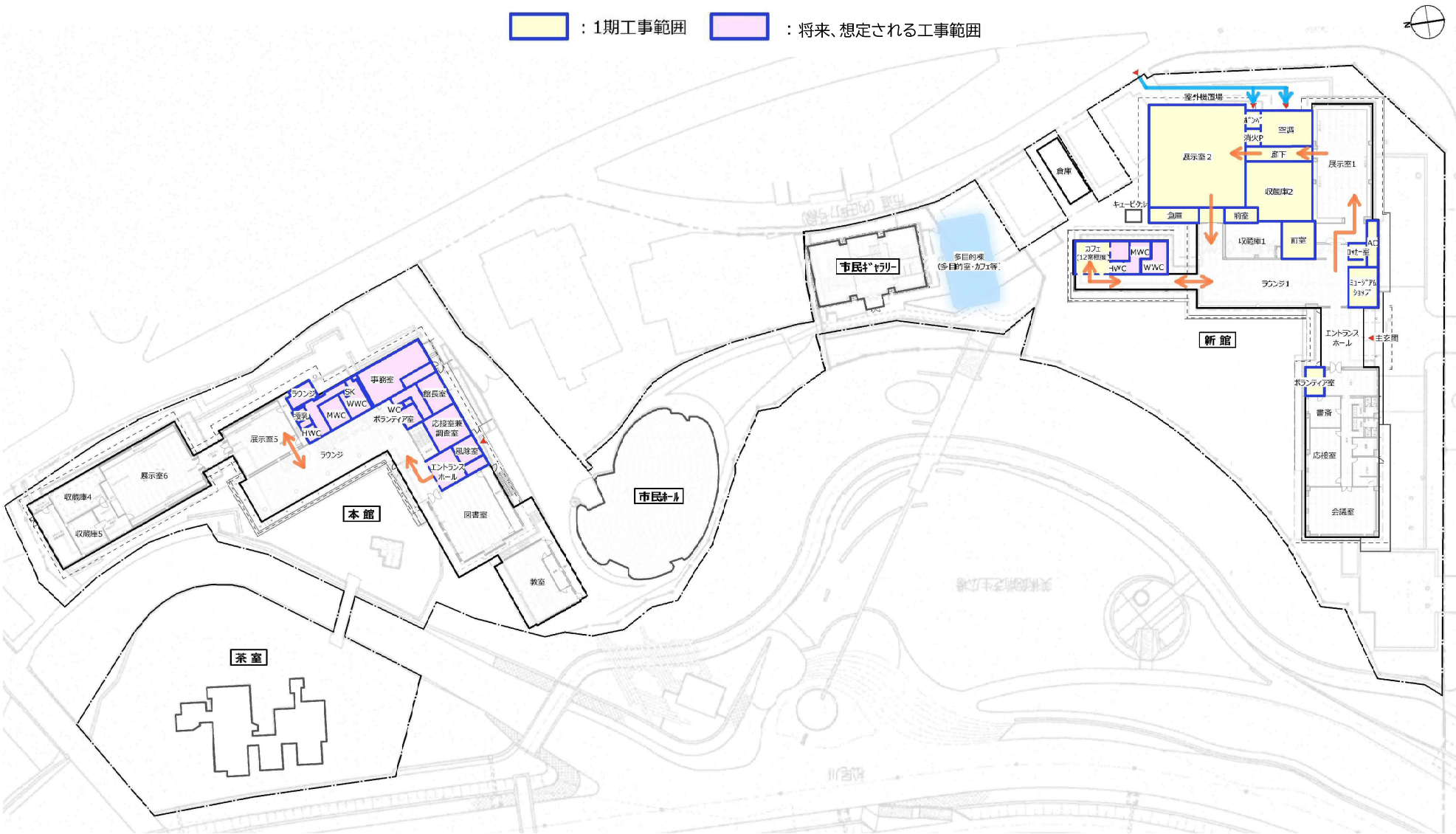
本計画により、新館全体における展示室・収蔵庫の面積は、以下のとおり増加します。

1.展示室 ： 約365㎡ ⇒ 約501㎡

2.収蔵庫 ： 約 93㎡ ⇒ 約163㎡


N
収蔵庫2
収蔵庫3
展示室2
展示室1
倉庫
キュービクル
収蔵庫1
視聴覚室
スタッフ控室
ロッカー
ミュージアムショップ
ラウンジ1
ラウンジ2
厨房
男
女
多機能
身障者用トイレ
新館
エントランスホール
書源
応接室
会議室
市民ギャラリー
市民ホール
事務室
館長室
応接室
展示室4
展示室5
ラウンジ
展示室3
図書室
展示室6
収蔵庫4
収蔵庫5
本館
教室
茶室

現況配置図

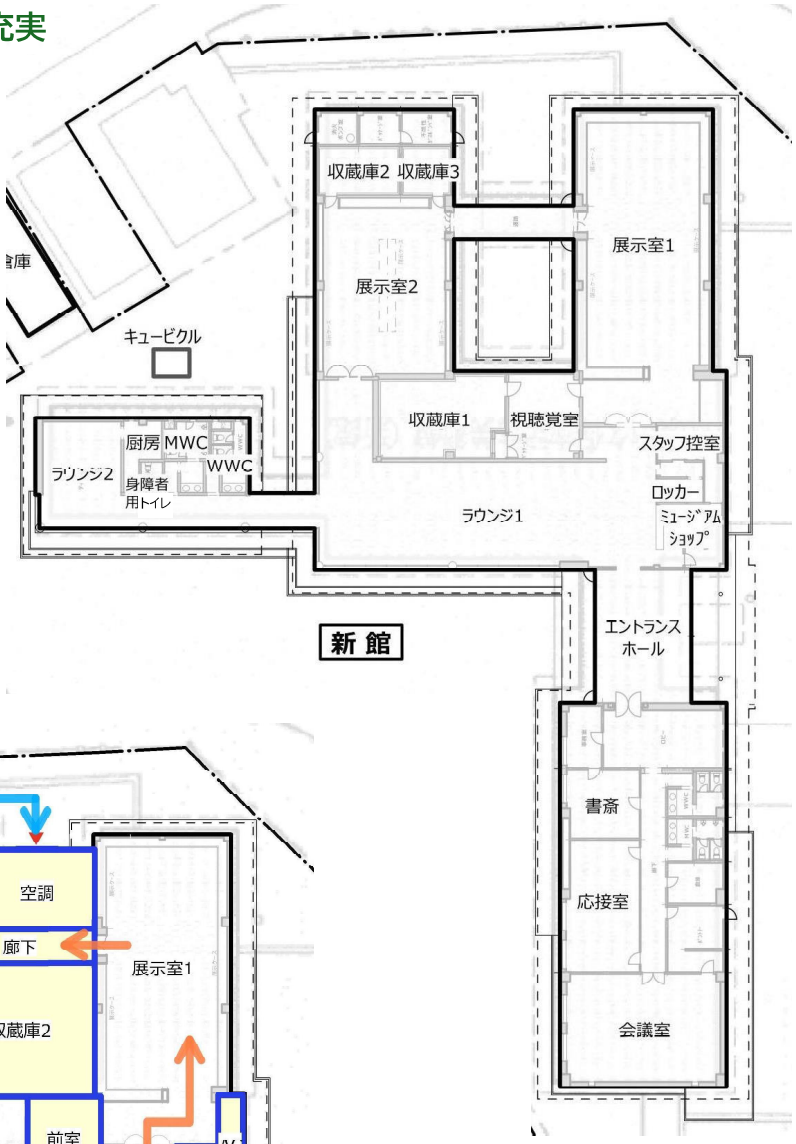

：1期工事範囲
：将来、想定される工事範囲
N
室外機置場
展示室2
廊下
展示室1
収蔵庫2
倉庫
前室
収蔵庫1
前室
ラウンジ1
新 館
エントランスホール
主玄関
ボランティア室
書庫
応接室
会議室
市民ギャラリー
多目的室（多目的室・カフェ等）
市民ホール
事務室
館長室
応接室兼調査室
ボランティア室
風除室
エントランスホール
ラウンジ
展示室5
展示室6
収蔵庫4
収蔵庫5
本 館
図書室
教室
茶 室

改修後配置図

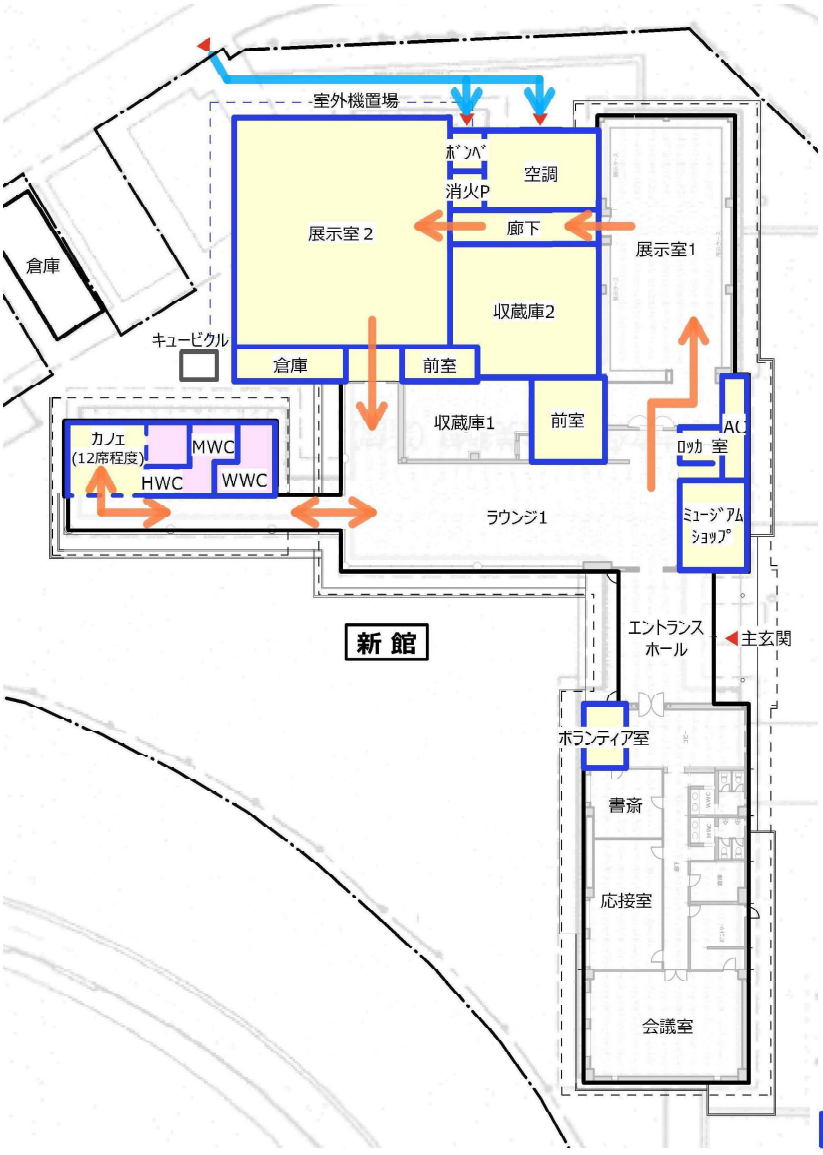
5-1-2 新館改修計画：滞在機能の充実

今後の来館者増加や利用者ニーズの多様化に対応するため、新館のトイレおよびミュージアムショップの改修を検討し、利用環境の向上とサービス機能の充実を図ります。

また、カフェ設置の必要性について、利用状況や利用者アンケートを実施するなど、ニーズを把握します。



新館現況平面図



新館増築･改修平面図

5-1-3 本館改修計画：バリアフリー化および動線改善

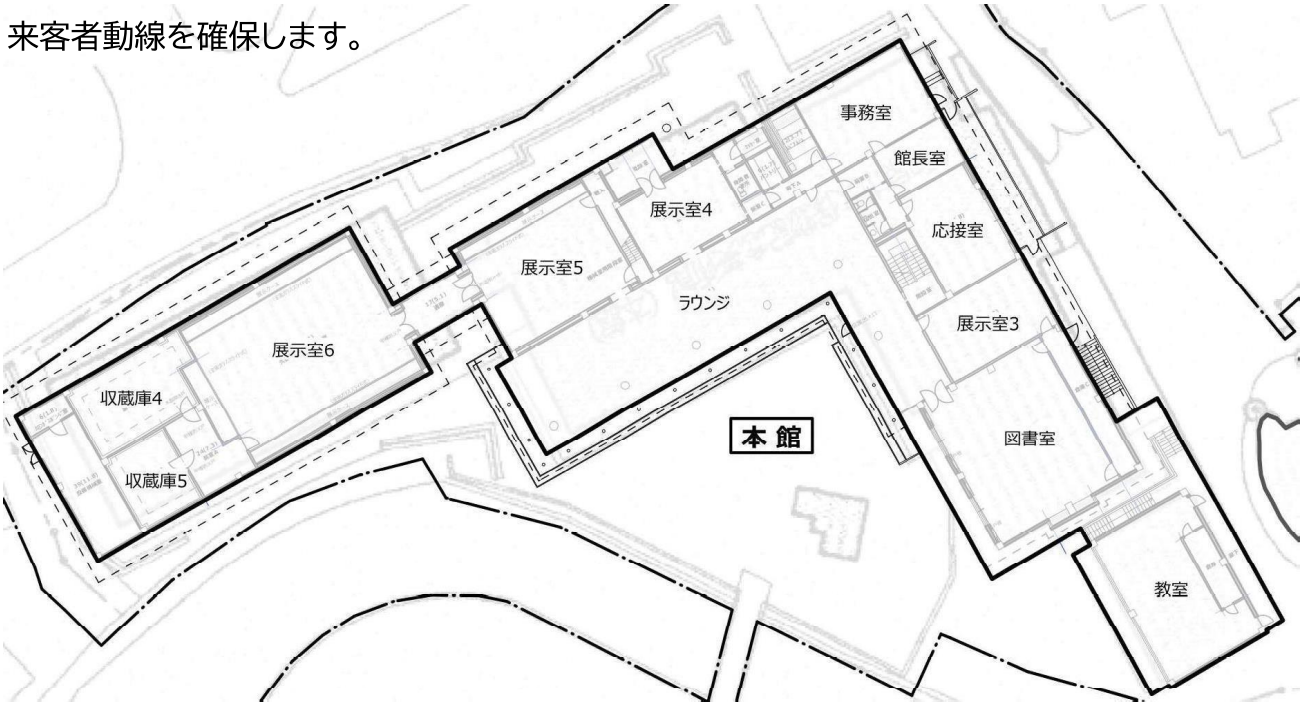
現在、本館のトイレは地階に配置されており、エレベーターが設置されていないことから、高齢者等にとって利用しにくい状況となっています。

このため、バリアフリー対応として、1階の展示室4を含む諸室をトイレへ改修し、将来的な来館者数の増加を見据えた適切な便器数を確保します。

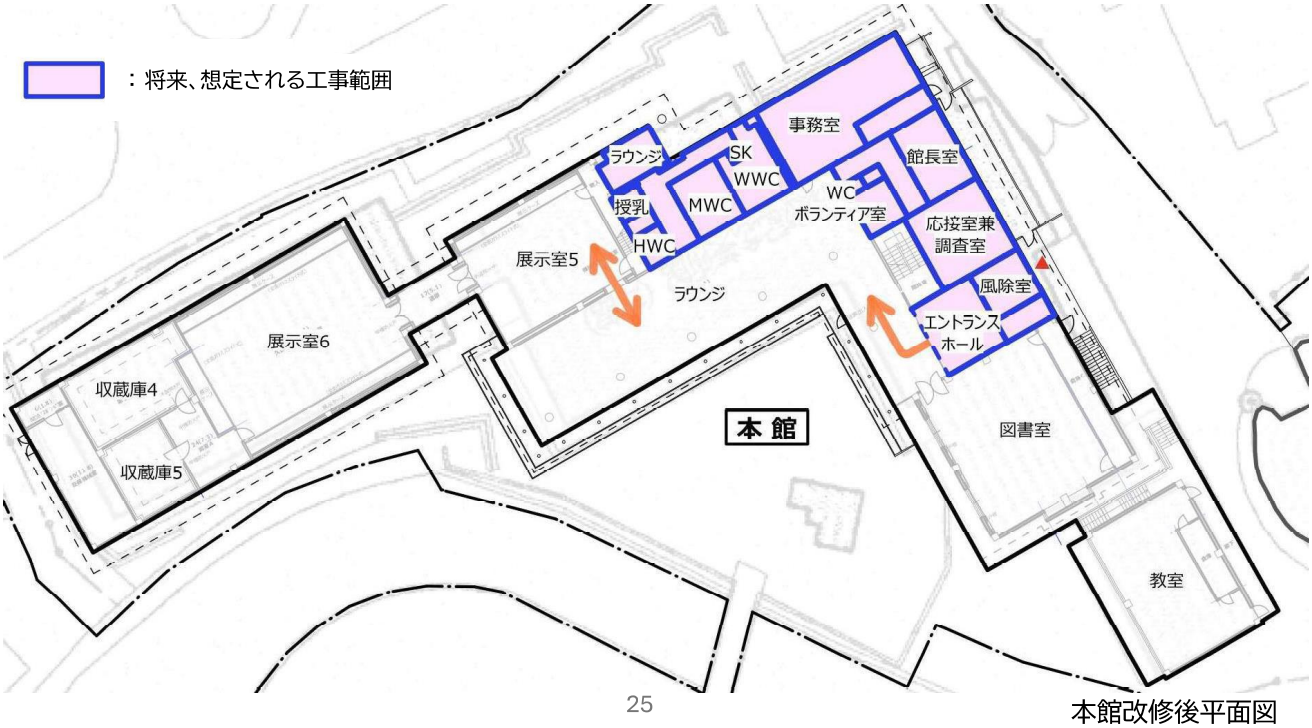
また、既設の身障者用トイレについては、スペースが狭く、衛生器具の配置も十分とは言えない状況であることから、今回のトイレ改修にあわせて、多目的トイレとして再整備を検討します。併せて、授乳室を新たに整備するよう検討します。

さらに、現在の本館の主玄関の位置では、新館からのアクセスが遠回りとなっていることから、展示室3を主玄関へ改修し、利用者動線の改善を図ります。

また、館長室に隣接する応接室については、外部から直接入室できる出入口の整備を検討し、来客者動線を確保します。



本館現況平面図



本館改修後平面図

5-2 設備計画

設備計画については、更新推奨時期を超過している設備機器の計画的な更新を基本とし、美術館として求められる展示･収蔵環境の維持向上を図ります。

また、来館者の安全性･利便性の向上、省エネルギー化、維持管理性の向上に配慮するとともに、災害時における機能継続性の確保を踏まえた設備計画とします。

5-2-1 電気設備計画

1. 受変電設備
本館 高圧ケーブル、計器用変流器(CT)、計器用変圧器(VT)、過電流継電器(OCR)、漏電火災警報器(LGR)が更新推奨時期を超過しているため更新します。
新館 キュービクルと幹線は令和6年に新設しているので移設し増設します。また増築による幹線サイズを変更します。

2. 幹線設備
本館 低圧幹線ケーブルは更新推奨時期を超過しているため、更新します。
新館 低圧幹線ケーブルはキュービクルの移設に伴い、更新します。
共通 電灯盤および動力盤はリニューアル完了時点で更新推奨時期を超過するため、電灯盤、動力盤を更新します。

3. 照明設備
共通 照明器具はリニューアル完了時点で更新推奨時期を超過するため、LED照明に更新します。
共通 均一な照度分布を確保するよう、器具の配置および照度設定に配慮した照明に更新します。
本館 新館 演色性の高い器具を選定し、展示される作品に適した色温度とします。
本館 新館 熱の影響を最小限に抑えるため、展示ケース内の照明は光の熱負荷が少ないLED照明とします。
新館 西側の植栽エリアにライトアップ用の照明を計画します。

4. 誘導灯･非常照明設備
共通 誘導灯および非常照明は更新推奨時期を超過しているため、LEDに更新します。

5. コンセント設備
共通 コンセントはリニューアル完了時点で更新推奨時期を超過しており、一部機器では破損も見受けられるため更新します。

6. 誘導支援設備
本館 新館 インターホンは更新、新館のドアホン･インターホンは使用していないため撤去します。

7. 放送設備
共通 業務放送アンプおよびスピーカー等の放送設備機器がリニューアル完了時点で更新推奨時期を超過するため更新します。

8. テレビ共聴設備
共通 使用実績が無いため、撤去します。

9. 電話設備
本館 新館 電話主装置･電話機･電話用アウトレットはリニューアル完了時点で更新推奨時期を超過するため更新します。
本館 電話用端子盤からの水漏れを解消するため、電話引込配管および端子盤を新設します。
新館 ホール リニューアル完了時点で更新推奨時期を超過するため更新します。

10. 情報設備
新館 西棟にて無線アクセスポイントの設置を計画し、Wi-Fi環境を整備します。

11. 自動火災報知設備
共通 自火報感知器および自火報総合盤がリニューアル完了時点で更新推奨時期を超過するため更新します。
新館 自動火災報知設備の受信機を更新します。

5-2-2 機械設備計画

1. 空調･換気設備
本館 新館 空冷ヒートポンプエアコンを更新し、高性能フィルターを設置します。

2. 衛生設備
共通 使いやすさ、サービス向上のため、以下の改修を行います。既存器具と同等グレードの器具を選定します。
本館 ホール 和式大便器は洋式大便器へ改修
共通 洗面器の水栓は自動混合水栓とし、貯湯式電気温水器を設置
本館 新館 本館･新館のHWCの改修、または器具更新

3. 屋内消火栓設備
本館 新館 人命に関わる設備のため、消火ポンプと屋内消火栓箱を撤去･新設します。

4. 不活性ガス消火設備
本館 2019年にハロンガスの交換を行っているため、今回工事は実施しません。
新館 2026年にイナージェンガスの交換を行うため、今回工事は実施しません。

5-2-3 保存環境計画

1. 温湿度基準

共通 設定値そのものよりも、24時間以内の変更幅を最小限に抑えることが重要です。急激な湿度変化は有機質材料(木材・紙)の伸縮を招き、ひび割れや剥離の原因となりますので、収蔵庫と一部を除く展示室は24時間空調とし、非常用発電機回路とします。

2. 空調ゾーニング

本館 新館 空冷ヒートポンプエアコンによる空調管理をします。収蔵庫は系統を分離し保存対象に合わせた個別運用とします。またガス状有機質材料(SOx・NOx等)や塵埃を除去する高性能フィルターの設置、および局所的な滞留を防ぐ緩やかな気流分布の形状が必要です。収蔵品保存の観点から、収蔵庫の天井裏に室内機や冷媒配管を設置することは避け、近接した室に床置きダクト接続型の室内機を計画します。

3. 非常時対応

共通 美術品を収蔵・展示する施設であるため、非常時においても美術品の保存環境を可能な限り維持する必要がありますので、収蔵庫と一部を除く展示室の空調・換気設備は非常用発電機回路とします。

5-2-4 BCP計画

1. 火災対応

共通 自動火災報知設備、誘導灯、非常照明設備などの各種防災設備を設置しているので、改修においても既存の考えを踏襲しつつ消防法に則って、火災等の異常発生時には早期発見、避難経路の確保、職員による初動対応が可能な計画とし、来館者の安全な避難を図るとともに、収蔵品・展示品への被害拡大を抑制します。

2. 停電対応

共通 停電時には非常用発電機により、防災・安全上不可欠な設備への電力供給を継続します。

本館 ホール 発電機回路の供給対象は、動力では本館の消火ポンプ、本館の一部を除く展示室および収蔵庫の空調、本館と市民ホールの排煙ファン等に電力を供給します。

本館 ホール 電灯では本館の自動火災報知設備受信機および本館と市民ホールの非常照明に電力を供給し、停電時でも施設の安全機能および最低限の環境維持機能が継続できる体制を整えます。

3. 浸水対応

共通 河川氾濫、ゲリラ豪雨への対策を行います。

共通 収蔵品は床置きせず、前室または収蔵庫の扉に防潮堤設置を検討し、排水設備の清掃を行います。

4. 災害時収蔵品保護

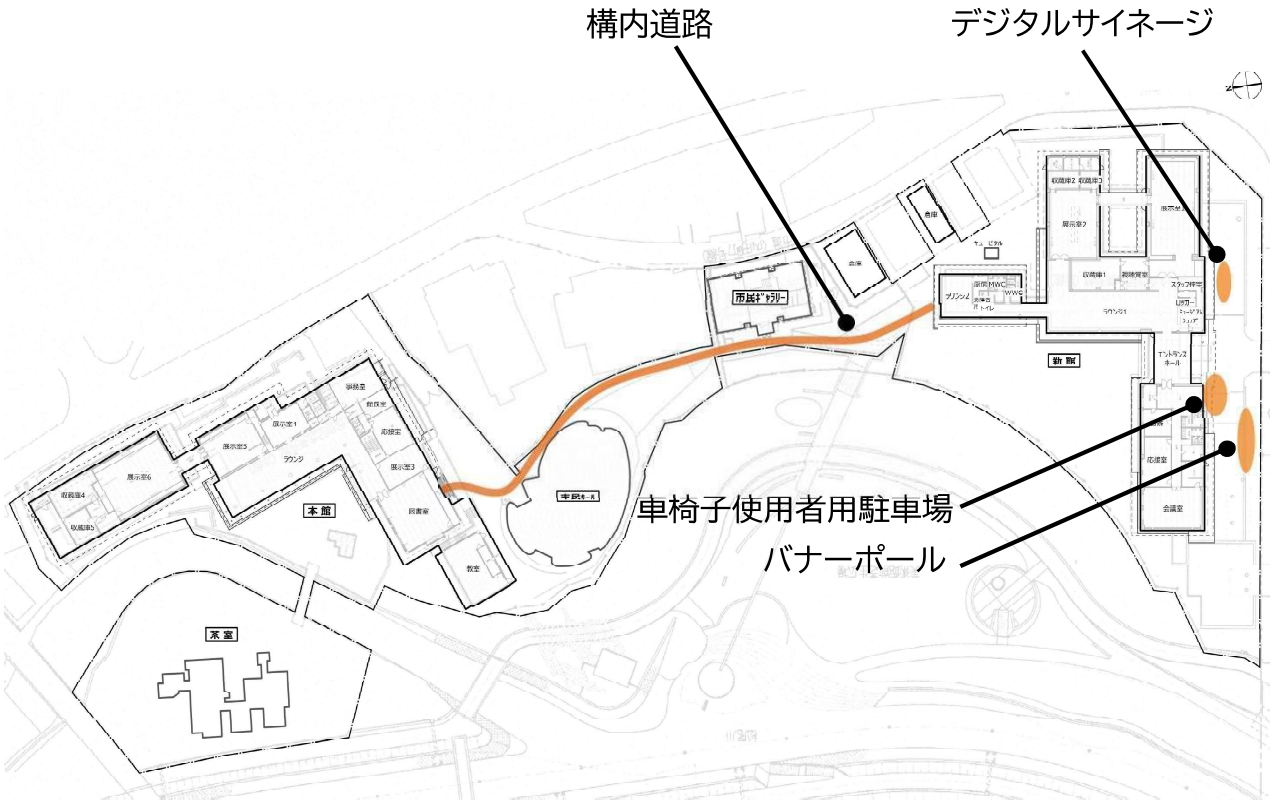
本館 新館 収蔵庫と一部を除く展示室の空調設備は保存環境の急激な変化を抑制するため、非常用発電機回路を計画します。

5-3 外構計画

外構については、来館者の利便性及び快適性の向上を図るとともに、誰もが安全かつ円滑に利用できる施設環境を整備します。

また、施設間の移動環境の改善や情報発信機能の充実を図るため、以下の改修を実施します。

・既設のフラッグポールを活用したバナー掲出を見直し、視認性及び維持管理性の向上を図るため、バナーポールへ更新します。
・既設の屋外掲示板については、多様な情報発信に対応できるデジタルサイネージへ改修します。
・新館出入口付近に車椅子使用者用駐車場を整備し、バリアフリー動線の充実を図ります。
・新館と本館を結ぶ構内通路については、車椅子使用者が安全かつ円滑に通行できる通路幅を確保するとともに、走行性に配慮した凹凸の少ない舗装材へ改修します。
・構内通路を屋根付き通路として整備し、雨天時においても施設間を円滑に移動できる環境を整備します。



外構計画

第6章 事業計画

6-1 整備手法(発注方式)の比較検討

本事業の推進にあたっては、施設の機能性や品質を確保するとともに、事業期間の短縮やコスト縮減、施工段階における柔軟な対応などを総合的に勘案し、適切な発注方式について比較検討します。

6-1-1 発注方式について

1. 設計施工分離方式(従来方式)
   設計と施工を別々に発注する方式です。設計内容を詳細に整理しやすく発注者意向を反映しやすい反面、設計・施工間の調整負担が大きく、工期長期化の恐れがあります。
2. 基本設計先行型設計施工一括発注方式(基本設計先行DB方式)
   基本設計まで発注者側で実施し、その後、実施設計・施工を一括発注する方式です。基本性能や空間方針を確保しつつ、施工者の技術提案やコスト縮減効果を活用できる反面、綿密な発注条件や要求水準の整理が必要です。
3. 設計施工一括発注方式(フルDB方式)
   設計・施工を一括で発注する方式です。工期短縮や設計施工連携による効率化が期待できる反面、発注者意向の反映や設計内容の調整が難しく、基本計画段階で緻密な要求水準策定が必要です。
4. 民間資金等活用事業方式(PFI方式)
   民間事業者が設計・施工・維持管理等を包括的に実施する方式です。民間ノウハウ活用やライフサイクルコスト縮減が期待できる反面、事業スキームが複雑で、事業規模によっては導入効果が限定的となります。

6-1-2 本事業に適した発注方式

当館のリニューアル事業では、美術館として求められる展示・収蔵環境や景観性、教育普及機能など、発注者として重視すべき基本的な施設性能を確保する必要があります。一方で、施工段階における技術提案や施工ノウハウを活用し、工期短縮やコスト縮減を図ることも重要となります。また、既存施設を活用しながらの改修事業であることから、施工条件や工程調整に対する柔軟な対応が求められます。

これらを総合的に勘案すると、発注者意向を基本設計段階で適切に整理・反映しつつ、実施設計・施工段階では民間事業者の技術力やノウハウを活用できる「基本設計先行DB方式」が、本事業に最も有力な発注方式であると考えられます。

なお、比較的小規模な事業である上、美術館の設立背景が個人コレクション寄贈を基礎としており、展覧会業務や美術品の継続的な保全に高度な専門性と多大なリスクを伴うため、収益性や民間裁量を重視するPFI方式は適性が低いと判断します。

発注方式	設計施工分離方式（従来方式）	基本設計先行型設計施工一括発注方式（基本設計先行DB方式）	設計施工一括発注方式（フルDB方式）	民間資金等活用事業方式（PFI方式）
概要	設計と施工を別々に発注する方式	基本設計後、実施設計・施工を一括発注する方式	設計・施工を一括で発注する方式	民間事業者が設計・施工・維持管理等を包括的に実施する方式
メリット	発注者意向を設計に反映しやすい	基本性能を確保しつつ、施工者の技術提案やコスト縮減効果を活用できる	工期短縮や設計施工連携による効率化が期待できる	民間ノウハウ活用やライフサイクルコスト縮減が期待できる
課題	設計・施工間の調整負担が大きく、工期長期化の恐れがある	発注条件や要求水準の整理が必要	発注者意向の反映が難しく、基本計画段階で高精度な要求水準設定が必要	事業スキームが複雑で、比較的小規模な本事業では導入効果が限定的
本事業との適合性	×	○	△	△

6-2 スケジュール

本事業は、当館の機能強化及び施設環境の向上を図るため、段階的に事業を推進します。

令和8年度に基本計画を策定し、その後は設計業務や各種手続きを経て、令和11年度からリニューアル工事に着手します。工事内容は、優先度の高い「1期工事」と、よりよい美術館へ向けての「将来、想定される工事」に分けて行います。なお、工事期間中は安全確保及び円滑に施工するため、養生期間を含め約3年間の休館を予定しています。

【1期工事のスケジュール】(予定)



6-3 概算事業費

今回のリニューアル計画における概算工事費及び工事概要は以下のとおりです。

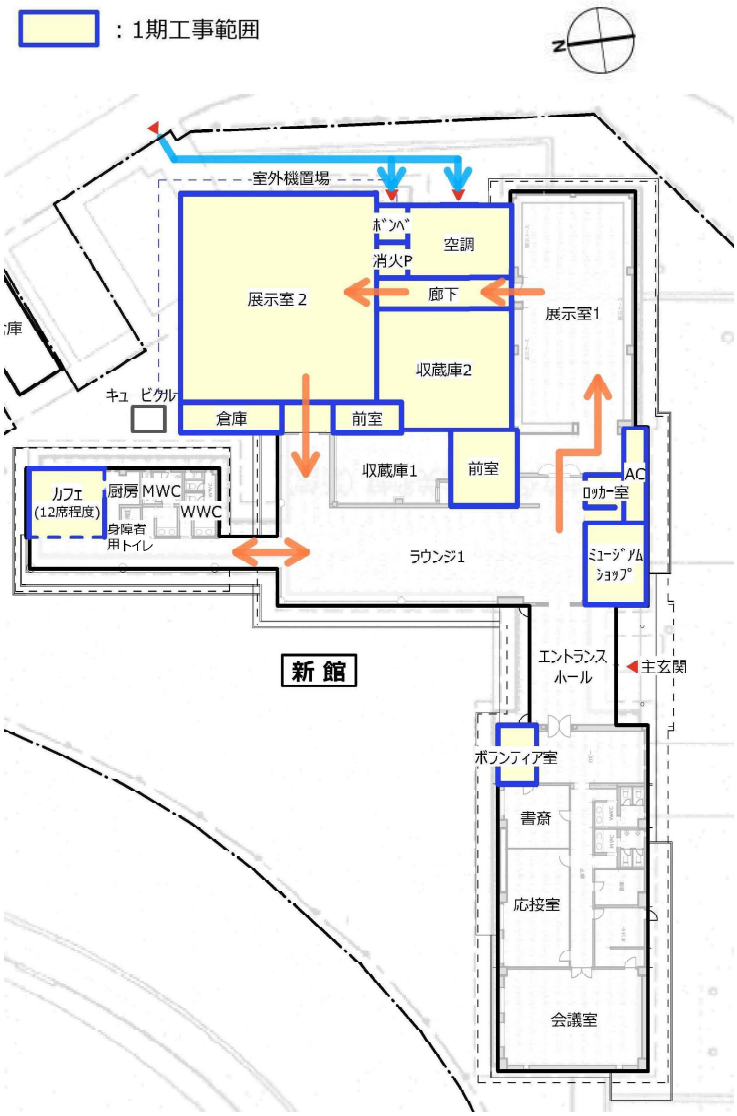
1期工事費	17.7億円

※税込み、経費込金額

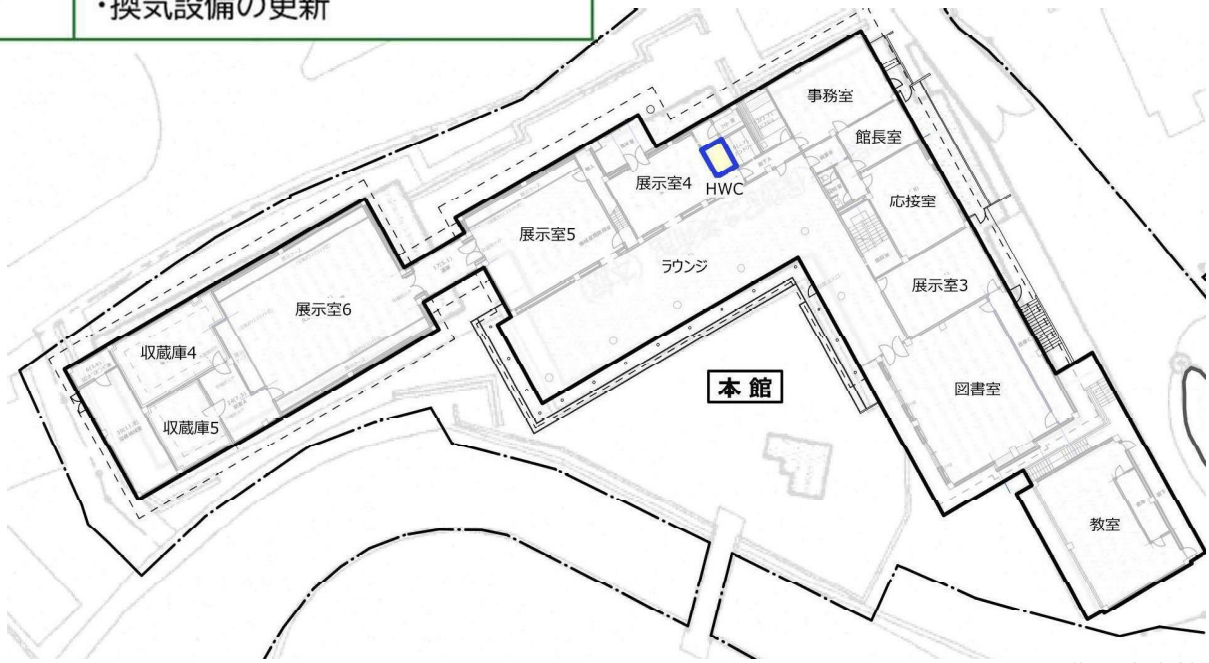
6-4 財源・補助制度活用

本リニューアル基本計画の財源は、地域で暮らす人々の生活環境の維持・向上を目的とした「地域未来交付金」の活用を想定しています。この交付金の特徴は施設の建設(ハード)だけでなく、そこで行うイベントや人材育成の運営費(ソフト)までをまとめて一括でサポートしているところです。

1期工事概要	
増築	・増築建物：RC造　2階建て 約500㎡（1階：展示室、収蔵庫 2階：設備機械室）
本館	・第1収蔵庫収蔵棚の更新 ・身障者用トイレ改修 ・照明設備、誘導灯・非常照明設備、各種幹線、キュービクル、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・空調設備、換気設備、トイレ衛生器具、防災設備の更新
新館	・展示ケースの更新 ・ミュージアムショップの拡張 ・カフェスペースの修繕 ・会議室の法適合改修 ・照明設備、誘導灯・非常照明設備、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・増築工事に伴うキュービクル移設 ・空調設備、換気設備、トイレ衛生器具、防災設備の更新
市民ホール	・照明設備、誘導灯・非常照明設備、放送設備、音響設備、舞台設備、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・空調設備（一部）、換気設備、トイレ衛生器具、防災設備の更新
市民ギャラリー	・照明設備、誘導灯・非常照明設備、放送設備、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・換気設備の更新



1期工事新館平面図



1期工事本館平面図

将来、想定される工事概要	
本館	・第2収蔵庫収蔵棚の更新 ・エントランスホール、事務室廻り、トイレ全面改修 ・多言語サイン改修 ・展示室および収蔵庫を電気錠に改修 ・内部および外部、外構各所修繕 ・高圧ケーブル、放送設備、弱電設備の更新 ・空調設備、換気設備、トイレ衛生器具の更新
新館	・内部および外部、外構各所修繕 ・トイレ全面改修 ・多言語サイン改修 ・展示室および収蔵庫を電気錠に改修 ・フラッグポール、屋外掲示板改修 ・放送設備、弱電設備の更新 ・空調設備、換気設備の更新
市民ホール	・内部および外部、外構各所修繕 ・多言語サイン改修 ・屋外渡り廊下整備 ・弱電設備の更新 ・空調設備の更新
市民ギャラリー	・内部および外部、外構各所修繕 ・多言語サイン改修 ・弱電設備の更新 ・トイレ衛生器具の更新
その他	・多目的室、カフェの設置

第7章 今後の進め方

本計画は開館50周年を迎える令和14年度のリニューアルオープンを一つの到達点としますが、当館を取り巻く社会環境や文化芸術へのニーズは、今後も大きく変化していくことが想定されます。そのため、本事業は単なる施設改修として完結するものではなく、将来的な発展を見据えた「成長し続ける美術館づくり」の第一段階として位置付けます。

今後は、周辺環境との連携可能性を踏まえながら、概ね10年を一つの節目として段階的な整備を検討していきます。具体的には多様な文化活動や地域イベントに活用できる多目的な機能を有する多目的室やセミナールーム及び滞在性向上につながるカフェの整備を検討、さらにはデジタル技術を活用した新たな鑑賞体験の導入など、多角的な機能強化をめざします。加えて本館においては新たなエントランスホールの整備、事務室廻りの動線の改善、1階にトイレを整備、新館においてはトイレのリニューアルを検討します。また本館と新館をつなぐ屋外渡り廊下の整備なども検討します。

さらには、美術館単体としての魅力向上にとどまらず、日本庭園や周辺地域との連携を深めながら、文化・観光・交流の拠点として地域に開かれた施設形成を進めていきます。時代ごとに求められる役割を柔軟に取り入れながら、市民一人ひとりの心に寄り添い、訪れるたびに新たな発見や感動、出会いが生まれる場所として、文化・芸術の力で人とまちをつなぎながら、世代を超えて愛され続ける美術館をめざします。

時代の変化や多様な価値観を柔軟に取り込み、地域とともに成長し続ける“生きた文化拠点”として、未来へ向けて挑戦と進化を重ねていきます。

和泉市久保惣記念美術館リニューアル基本計画（案）

第1章 計画策定の背景と目的

■計画策定の背景

昭和57年10月に開館した当館は当初約500点の美術品を収蔵していましたが、現在ではおよそ13，000点を収蔵しており、日本・東洋の古美術品を中心として国宝2点、重要文化財29点のほか西洋近代美術等も収蔵する国内有数の美術館です。敷地内には本館と新館の他にも市民ホールや市民ギャラリー、市民創作教室、研究棟も順次整備され、これまでに蓄積された文化資源を生かした芸術活動の場となり、今や和泉市における文化発信拠点となっています。

しかしながら、開館から40年以上が経過しており、施設と諸設備の老朽化が著しく、長寿命化への速やかな対応が求められています。また、社会環境や来館者ニーズの変化に加え、デジタル技術の進展などによる展示手法の多様化への対応も必要となっています。さらに、収蔵品の増加に伴う収蔵環境の改善や、より魅力的な鑑賞体験を提供するための展示機能の向上、来館者が快適に過ごせる滞在機能の強化が課題となっています。

今後は当館単体機能の充実にとどまらず、周辺地域とのまちづくり連携を図りながら、来館者増加と地域活性化につなげていくことが求められているため、本基本計画を策定するものです。



美術館全景

第2章 現況分析と課題整理

■現況分析の概要及び課題の整理

当館の現況及び運営上の課題を把握するため、現地調査及び施設管理者・学芸員等へのヒアリング調査をリニューアル基本計画策定業務受注者とともに実施しました。また設備機器については更新履歴及び更新推奨時期の整理を行い、今後の設備更新の必要性について検討しました。

また、建築・設備の老朽化状況に加え、展示環境、収蔵環境、利便性、管理運営及び教育普及活動等に関する課題について、施設全体に共通する課題をテーマ別に整理しました。

展示環境に関する課題
1. 展示空間の老朽化
2. 展示ケース・展示機能の課題
3. 展示運営上の課題

収蔵環境に関する課題

来館者サービス・バリアフリーに関する課題
1. トイレ・ユニバーサル対応
2. 移動・動線課題
3. 案内・多言語対応

建築・施設老朽化に関する課題
1. 外装・防水・漏水
2. 構造・安全性
3. 法適合課題

設備老朽化・インフラに関する課題
1. 電気設備
2. 空調・機械設備

DX・将来機能強化に関する課題

■設備機器更新記録による更新時期の整理

設備機器更新記録をもとに、各設備機器の更新履歴、更新周期及び更新推奨時期について整理し、リューアル工事における設備更新の必要性について検討しました。

なお、本整理は確認できた資料に基づき一般的な更新周期を用いて機械的に整理したものであります。

そのため、実際の更新時期については今後の詳細調査等により変動することを踏まえ、リニューアル工事における設備更新検討の基礎資料として整理しました。

第3章 必要機能の整理

■課題に対する6つの機能

リニューアル計画を進めるにあたり現状課題の解決のため、以下の6つの機能を検討します。

機能1 展示手法の多様性と滞在空間の充実
1. 多様な展示手法・大型作品への対応
2. 開放感・滞在性の向上
3. AR・映像演出等のデジタル展示への対応

機能2 収蔵環境と保存機能の強化
1. 収蔵品の増加への対応
2. 適切な保存環境の確保
3. 収蔵管理動線の合理化

機能3 教育普及と地域連携の充実
1. 市民が芸術に触れる機会と体験の創出
2. 地域の学習環境の充実
3. 地域との連携を深め多世代が利用できる環境の整備

機能4 調査研究・情報発信機能の強化
1. 学芸研究環境の充実
2. 蔵書・資料管理機能の最適化
3. デジタルアーカイブの整備

機能5 日常的に訪れたくなる親しみのある滞在型美術館へ
1. 滞在交流空間の充実
2. サービス・情報発信の充実
3. アートにまつわるイベントの開催

機能6 長寿命化、利用環境向上
1. 更新時期を迎える設備
2. 更新対象設備の考え方

第4章 展示・学芸・運営基本計画

■展示基本計画

今後、より多くの作品展示や展覧会活用を行うため、新館の展示ケースの改修に加えて、新館の展示面積拡充や天井高の高い展示室の増設を検討します。コレクション常設展以外は新館で開催することを検討しており、大規模な特別展などは本館・新館の両方で開催する予定です。これらの改修をすることで、美術館としての活動の幅を広げるとともに、映像展示など近年の新たな展示手法にもチャレンジができる空間の整備を検討します。

増設する展示室については、他と比べて高い天井高を活かした設えとします。可動パネルを設置して様々な大きさの作品を展示できるような設えとしつつ、展覧会ごとに観覧動線を変えることができるフレキシブルな展示室の整備を計画します。

■デジタル活用計画

近年では実物資料の展示のみに限らず、映像を活用したプロジェクションマッピングや最新機器によるAR・VRの導入が各博物館施設で進んでいます。こうした技術を取り入れていくことで、あらゆる層に楽しんでいただける美術館をめざしていきます。

さらに当館においては、「デジタルミュージアム」という形でデータベース化を進めており、今後館内でアクセスできる端末を設置することも検討します。

加えて外国人観光客に向けた取組みとして、QRコードや音声ガイダンスなどによる多言語展示解説システムの導入や解説グラフィックの導入についても引き続き検討します。



天井の高い展示室

■教育普及・地域連携計画

「和泉市久保惣記念美術館 運営ビジョン」において、美術館が社会に向けて発信する新たな価値と役割について以下のように整理しました。

①多様な価値観・心の豊かさを育む美術館
②未来の和泉を織りなす美術館
③まちと人を紡ぐ、和泉に根ざした美術館

教育・普及・創作に関連した活動の場として、あらゆる用途に対応でき、多目的に使用できる諸室やセミナールームの整備を検討します。

■調査研究計画

収蔵品や新規資料に対しての調査・研究をより充実させ、出版物等でその成果を社会へ還元する取組も継続します。

■収蔵環境整備計画

現在、当館では浮世絵版画を含む約13,000点の作品を収蔵しています。開館当初は500点であったことから考えると、収蔵庫面積が不足している状況です。また、什器の配置位置や設備の老朽化から、収蔵庫内の温湿度を均一に保てないことも課題として挙げられます。

■滞在機能計画

現在設置されてるミュージアムショップについて、今回の改修を踏まえて設置場所と必要面積を再度検討いたします。

また、より気軽に立ち寄っていただけるようカフェの設置も検討します。



大型作品を展示可能な展示ケース

第5章 建築・設備基本計画

■配置・平面計画

配置・平面計画については、展示・収蔵機能の充実を図るとともに、来館者サービス機能の向上及び利用者動線の改善を目的として、既存施設の改修及び増築を一体的に計画します。

■増築計画：展示室・収蔵庫の充実

複数案による比較検討を行った結果、既設新館の一部を解体したうえで、現在の敷地範囲内において増築を行い、展示室および収蔵庫を拡張する計画としました。

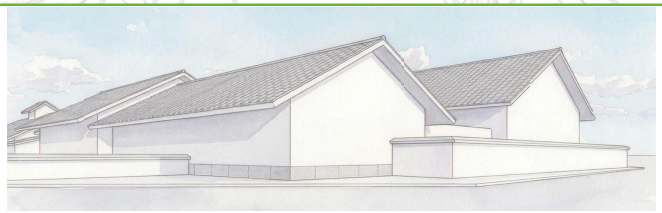
収蔵機能については、既設収蔵庫1に前室を設けることで、温湿度管理や動線管理に配慮した構成とし、公開承認施設として必要な水準を満たす収蔵環境を整備します。

本計画により、新館全体における展示室・収蔵庫の面積は、以下のとおり増加します。

1.展示室 ： 約365㎡ → 約501㎡
2.収蔵庫 ： 約93㎡ → 約163㎡



新館増築配置図



新館増築CG

■新館改修計画：滞在機能の充実

今後の来館者増加や利用者ニーズの多様化に対応するため、新館のトイレおよびミュージアムショップの改修を検討し、利用環境の向上とサービス機能の充実を図ります。

また、カフェ設置の必要性について、利用状況や利用者アンケートを実施するなど、ニーズを把握します。

■本館改修計画：バリアフリー化および動線改善

バリアフリー対応として、1階の展示室4を含む諸室をトイレへ改修し、将来的な来館者数の増加を見据えた適切な便器数を確保します。

今回のトイレ改修にあわせて、1階身障者用トイレを多目的トイレとして再整備を検討します。併せて、授乳室を新たに整備するよう検討します。

さらに、現在の本館の主玄関の位置では、新館からのアクセスが遠回りとなっていることから、展示室3を主玄関へ改修し、利用者動線の改善を図ります。

また、館長室に隣接する応接室については、外部から直接入室できる出入口の整備を検討し、来客者動線を確保します。

■設備計画

設備計画については、更新推奨時期を超過している設備機器の計画的な更新を基本とし、美術館として求められる展示・収蔵環境の維持向上を図ります。

また、来館者の安全性・利便性の向上、省エネルギー化、維持管理性の向上に配慮するとともに、災害時における機能継続性の確保を踏まえた設備計画とします。

■外構計画

外構については、来館者の利便性及び快適性の向上を図るとともに、誰もが安全かつ円滑に利用できる施設環境を整備します。

1期工事概要	
増築	・増築建物：RC造 2階建て 約500㎡（1階：展示室、収蔵庫 2階：設備機械室）
本館	・第1収蔵庫収蔵棚の更新 ・身障者用トイレ改修 ・照明設備、誘導灯・非常照明設備、各種幹線、キュービクル、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・空調設備、換気設備、トイレ衛生器具、防災設備の更新
新館	・展示ケースの更新 ・ミュージアムショップの拡張 ・カフェスペースの修繕 ・会議室の法適合改修 ・照明設備、誘導灯・非常照明設備、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・増築工事に伴うキュービクル移設 ・空調設備、換気設備、トイレ衛生器具、防災設備の更新
市民ホール	・照明設備、誘導灯・非常照明設備、放送設備、音響設備、舞台設備、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・空調設備（一部）、換気設備、トイレ衛生器具、防災設備の更新
市民ギャラリー	・照明設備、誘導灯・非常照明設備、放送設備、電灯盤・動力盤、自動火災報知設備の更新 ・換気設備の更新

将来、想定される工事概要	
本館	・第2収蔵庫収蔵棚の更新 ・エントランスホール、事務室廻り、トイレ全面改修 ・多言語サイン改修 ・展示室および収蔵庫を電気錠に改修 ・内部および外部、外構各所修繕 ・高圧ケーブル、放送設備、弱電設備の更新 ・空調設備、換気設備、トイレ衛生器具の更新
新館	・内部および外部、外構各所修繕 ・トイレ全面改修 ・多言語サイン改修 ・展示室および収蔵庫を電気錠に改修 ・フラッグポール、屋外掲示板改修 ・放送設備、弱電設備の更新 ・空調設備、換気設備の更新
市民ホール	・内部および外部、外構各所修繕 ・多言語サイン改修 ・屋外渡り廊下整備 ・弱電設備の更新 ・空調設備の更新
市民ギャラリー	・内部および外部、外構各所修繕 ・多言語サイン改修 ・弱電設備の更新 ・トイレ衛生器具の更新
その他	・多目的室、カフェの設置

第6章 事業計画

■整備手法（発注方式）の比較検討

当館のリニューアル事業では、美術館として求められる展示・収蔵環境や景観性、教育普及機能など、発注者として重視すべき基本的な施設性能を確保する必要があります。一方で、施工段階における技術提案や施工ノウハウを活用し、工期短縮やコスト縮減を図ることも重要となります。また、既存施設を活用しながらの改修事業であることから、施工条件や工程調整に対する柔軟な対応が求められます。

これらを総合的に勘案すると、発注者意向を基本設計段階で適切に整理・反映しつつ、実施設計・施工段階では民間事業者の技術力やノウハウを活用できる「基本設計先行DB方式」が、本事業に最も適した発注方式であると考えられます。

発注方式	設計施工分離方式（従来方式）	基本設計先行型設計施工一括発注方式（基本設計先行DB方式）	設計施工一括発注方式（フルDB方式）	民間資金等活用事業方式（PFI方式）
概要	設計と施工を別々に発注する方式	基本設計後、実施設計・施工を一括発注する方式	設計・施工を一括で発注する方式	民間事業者が設計・施工・維持管理等を包括的に実施する方式
メリット	発注者意向を設計に反映しやすい	基本性能を確保しつつ、施工者の技術提案やコスト縮減効果を活用できる	工期短縮や設計施工連携による効率化が期待できる	民間ノウハウ活用やライフサイクルコスト縮減が期待できる
課題	設計・施工間の調整負担が大きく、工期長期化の恐れがある	発注条件や要求水準の整理が必要	発注者意向の反映が難しく、基本計画段階で高精度な要求水準設定が必要	事業スキームが複雑で、比較的小規模な本事業では導入効果が限定的
本事業との適合性	×	○	△	△

発注方式の比較検討表

■スケジュール

本事業は、当館の機能強化及び施設環境の向上を図るため、段階的に事業を推進します。

令和8年度に基本計画を策定し、その後は設計業務や各種手続きを経て、令和11年度からリニューアル工事に着手します。工事内容は、優先度の高い「1期工事」と、よりよい美術館へ向けての「将来、想定される工事」に分けて行います。なお、工事期間中は安全確保及び円滑な施工を行うため、養生期間を含めて約3年間の休館を予定しています。



1期工事のスケジュール（予定）

■概算事業費

今回のリニューアル計画における概算工事費は以下のとおりです。

1期工事費	17.7億円

※税込み、経費込金額